

穴部国府津線

関連遺跡

(小田原市No.271・272・273 遺跡)

調査期間 20060601～20070331

所在地
No.271 遺跡:小田原市
下堀字広坪 7-1 番地
外
No.272 遺跡:小田原市
下堀字道上町 108-1
番地外
No.273 遺跡:小田原市
成田字スワノ脇 202 番
地外

時代
No.271・272 遺跡:中世
No.273 遺跡:古代・古墳



更新日:20080919

概要

本調査は、県土木整備部小田原土木事務所による都市計画道路穴部国府津線街路整備事業に伴う埋蔵文化財調査です。開発は東西に延びるため、発掘調査は3遺跡が対象となりました。いずれの遺跡も、小田原市域の中央部を流れる酒匂川の左岸に広がった低地に立地します。

しもぼりほうけいきょかん
No.271 遺跡は、下堀方形居館と呼ばれる中世豪族居館の北側に隣接しています。発掘調査では、居館の外側を取り巻く堀と、さらに外側を巡る外堀の一部が発見されました。これらの堀からは、陶磁器類のほか、漆器などの木

こうがい
製品や 筭 といった金属製品など、当該期の良好な遺物が出土しています。

No.272 遺跡は、下堀方形居館から西に約 300 メートルの地点に位置します。遺跡は、江戸時代に開削された灌漑用水路である酒匂堰の左岸に近接します。発掘調査では、No.271 遺跡で発見された遺構とほぼ同じ頃である中世の溝が多数発見されました。溝は下堀方形居館と同じ軸線を持つことか



▲No.271 遺跡 調査区と下堀方形居館



ら、当地域は居館を中心に整然とした地割りを持つ、計画的な開発が行われていたことが伺われます。

No.273 遺跡は、No.272 遺跡より約 1km 西側にあたります。発掘調査では、古墳時代から奈良時代にかけての建物址などが多数発見されました。古墳時代の遺構では、幅 4.5m 以上の溝が検出されています。溝の続きは調査区外に延びるため、全容を明らかとすることはできませんでしたが、その規模から推定すると、当該時期の豪族居館に伴う溝かもしれません。

▲No.271 遺跡 外堀



▲No.271 遺跡 外堀出土漆器